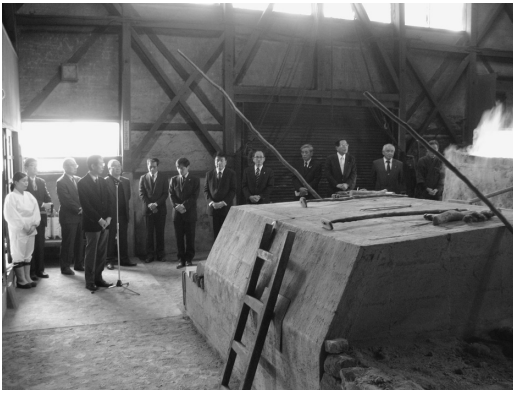


平成二十七年年度 「日刀保たたら」火入式及び操業開始

去る平成二十八年一月二十日(水)、島根県仁多郡奥出雲町大呂の「日刀保たたら」において、本年度初の火が入り、火入式が行われ、操業が開始されました。

操業回数は本年度も三代(三回)で、伝統技術の円滑継承と各養成員の着実な技量向上が進んでおります。三上孝徳・堀尾薫両村下代行といった後継者小野会長の挨拶



も育っており、文化財保護法第一四七条の「選定保存技術」の趣旨に則した運営を行っております。このような重い使命を背負った「日刀保たたら」は、本年二月六日まで操業を行い、この負託に応えることができました。本年の第一代は、例年になく降雪量が多く、久しぶりに高殿の軒下からつららが下がるといった「たたららしい」火入式木原・渡部両村下による初種



となりました。その三代の操業を経て日刀保たたらはの操業回数は、復活以来百五十回を越えようとしています。火入式は、一月二十一日午前十時三十分、小野裕会長、柴原勤専務理事、志塚徳行常務理事、飯田俊久学芸部長、黒滝哲哉たたら伝統文化推進課長の列席のもと神事で幕を開けました。来賓としては、日立金属(株)安来工場和田知純執行役副工場長、(株)日立金属安来製作所荒木雅文代表取締役社長、地元からは奥出雲町勝田康則町長らが出席されました。



勝彦村下により装入され、三代の操業が始まりました。第二代目に見学に来た、鎌倉支部の出島氏から、もの作りの原点を見て、あらためて日刀保たたら的重要性を再認識したとの見学記が寄せられております。また、新人研修を兼ね、第二代目には小菅太一調査課員、第三代目には武田耕太郎たたら課員が派遣され、炭割りなどの実習体験を行い、現場の辛苦と喜びを体験しました。日刀保たたら関係者は、もの作りの原点のひとつであるこの鐵作りの重要性和と真価を十二分に噛み締めながら、日々研鑽を積んでいく所存です。木原村下による養成員の指導

